



新年号

発行所
水戸市千波町1918番地
茨城県総合福祉会館内
公益財団法人茨城県消防協会
編集発行人
消防協会長 葉 梨 衛
印刷所
(南堀口印刷)
1部 15円
(購読料は年会費に含まれています)



年頭に寄せて

公益財団法人茨城県消防協会

会 長 葉 梨 衛

平成三十年の輝かしい新春を迎え、
消防関係者の皆様にご挨拶を申し
上げます。

消防団員・消防職員の皆様方には、常
日頃から、地域住民の生命・身体・財産
の保全のため、火災を始めあらゆる災害
に対し、昼夜を分かたず、献身的に職務
に精励されておりますことに対し、心か
らの敬意と感謝の意を表するものであり
ます。

また、消防関係諸団体の皆様方には、
消防防災に対する深いご理解のもと、熱
心にご活動されていることに対し、深甚
なる敬意を表する次第であります。

我が国の消防は、戦後、地域に密着し
た自治体消防として発足し、今年、七
十周年を迎えます。この間にご尽力頂い
た先人の皆様方に感謝申し上げますと
もに関係者の並々ならぬご努力によりま
して、組織・設備の両面において着々と

充実強化されておりますことは、誠にこ
同慶の至りでございます。

今日、消防の任務及び活動は、火災予
防、警防、救急救助をはじめ、地震や風
水害などの自然災害への対応等広範囲に
わたり、さまざまな場面で地域住民の安
全・安心確保に大きな役割を果たしてい
るところでございます。

さて、東日本大震災から七年が経ちま
すが、この間にも実に様々な災害が発生
しており、昨年七月に九州北部豪雨、
十月には台風二十一号・二十二号が相次
いで上陸し各地に甚大な被害をもたらし
ました。特に台風二十一号では、本県に
おいても尊い命が犠牲になるなど悲惨な
結果をもたらしました。

さらに、年末には台風並みの低気圧に
より北海道などでは猛吹雪による被害、
大阪府豊中市での共同住宅火災やさいた
ま市の特殊浴場火災など一向に減ること

のない火災に対し、地域住民の安全・安
心に対する意識が益々高まってきており、
消防の責務も一段と重要性を増しており
ます。このように、いつ発生するか予測
のつかない災害から被害を最小限にとど
めるためには、地域において日頃から備
えを万全にしておくことが重要であり、
そのためには、消防団が中核的な役割を
果たしながら、住民や企業・団体などが
一層連携し、地域の総力を結集して地域
防災力の充実強化を目指さなければなら
ないと考えております。

本協会といたしましても、消防の持つ
使命の重要性を深く認識し、県民の『安
全・安心の確保』のため、今後とも各種
事業を積極的に推進して参る所存でござ
います。



新年のご挨拶

茨城県知事 大井川 和彦

新年あけましておめでとございます。
皆様にはすがすがしい新春をお迎えるの
こととお慶び申し上げます。

知事に就任してから3ヵ月余り、この
間、現場に足を運び、さまざまな課題に
ついて改めて認識を深めますとともに、
私自ら多くの職員と議論を進め、新しい
茨城づくりの方向性を取りまとめました。
一年の始まりに当たり、未来に向けて

特に、平成十九年度の理事会・評議員
会で決議いたしました「女性消防団の結
成促進に向けた取組み」につきましては、
各消防団長さんをはじめ、関係者の皆様
の熱意とご努力により、着々と実績を上
げてきており、女性採用団は昨年十二月
現在で県内四十四消防団中四十三団を数
え、女性採用団数の割合は九十八パーセ
ントと全国でも高い割合となっております。
どうか皆様におかれましても、心新た
に「安全な地域づくり」のため、なお一
層のご尽力を賜りますようお願い申し上
げます。

結びに、皆様方とご家族様のご健勝、
ご多幸を心よりお祈り申し上げます、
年頭のご挨拶といたします。

大きな一歩を踏み出し、新しい県づくりに邁進していく決意を新たにしています。
社会のあらゆる分野で深刻になる人手不足、地域間の競争激化や格差の拡大など、厳しい時代を迎えようとしています。

力強い産業を創出し、豊かさを実感できる暮らしを育みますとともに、医療・福祉・治安・防災など、安心・安全な生活基盤を築いてまいります。

将来の予測が難しく、混沌とした時代を迎える中、確かなものはこれからの茨城を創る「人財」です。

子どもたちが得意なものを見つけ、さらに伸ばし、グローバル社会で活躍できる教育環境、子どもを産み育てやすい県づくりを進めてまいります。

将来にわたって、夢や希望を描ける茨城とするため、今から布石を打っていくことが私の使命であります。

世界湖沼会議、茨城国体・全国障害者スポーツ大会や東京オリンピック・パラリンピックの成功、あらゆる産業における海外展開やベンチャー企業支援、魅力度向上などに力を注いでまいります。

これからの茨城を切り拓いていくためには、これまでの常識にとらわれず、新しい発想で果敢に挑戦していかなければなりません。

人口減少や少子高齢化、刻一刻と進む時代の変化に真正面から向き合い、茨城のあるべき姿を見据えて、一歩でも前に進んでいける一年にしていきたいと考えています。

県民の皆様のお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、本年が、実り多き素晴らしい一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。



平成三十年 消防出初式



水戸若鷺会



女性防火クラブパレード



分団観閲・分列行進



はしご車試乗体験

新春を飾る消防出初式が一月六日から十四日までの土・日・祝日の五日間に県内各地で挙行されました。式典において永年のご功績が認められ表彰を受けられました皆様方に心からお祝い申し上げます。また、事前準備や当日寒い中対応されました関係者の皆様方、大変お疲れ様でした。一月七日(日)に挙行されました水戸市消防出初式の様子を写真にて紹介します。

平成二十九年 支部別消防団長等懇談会を開催

恒例の支部別消防団長等懇談会が、昨年十二月に県南支部、年明け一月から残る五支部で順次開催しております。出席者は、消防団長をはじめ消防長、消防主任並びに県から消防安全課長、消防学校長及び同職員、協会事務局です。

〔開催日程〕

- 県南支部 五市
平成二十九年十二月二十日
土浦市消防本部
- 県北支部 九市町村
平成三十年一月十二日
ひたちなか・東海消防本部
- 県央支部 六市町
平成三十年一月十九日
水戸市消防本部北消防署
- 県南支部 九市町村
平成三十年一月二十六日
利根町役場
- 県西支部 十市町
平成三十年二月二日
五霞ふれあいセンター
- 鹿行支部 五市
平成三十年二月十六日
鉾田市旭総合支所

議題

- (一) 防災教育に係る消防団の活用
- (二) 「消防団応援の店」事業の導入に係る相談窓口の設置について
- (三) 消防本部別住宅用火災警報器の設置率について
- (四) 平成三十年度消防学校教育訓練計画(案)の概要について
- (五) 平成三十年度消防団長研修会について
- (六) 公益財団法人茨城県消防協会の中長期運営計画(案)について
- (七) 茨城県自治体消防制度七十周年記念事業について
- (八) 茨城県消防ポンプ操法競技大会開会式時の入場行進について
- (九) 日本消防協会の火災共済及び個人年金等

懇談会は、消防安全課から議題(一)「防災教育に係る消防団の活用」から(三)「消防本部別住宅用火災警報器の設置率について」、県立消防学校から(四)「消防学校の教育訓練計画(案)について」、消防協会から、(五)「平成三十年度消防団長研修会について」から(九)「日本消防協会の火災共済及び個人年金等」について説明がありました。いずれの会場でも、限られた時間の中で有意義な情報交換が出来たものと思われま



県南支部 飯嶋支部長あいさつ

日本消防協会主催 消防団幹部特別研修

日本消防協会主催による第四十四回消防団幹部特別研修が実施され、本県からは阿見町消防団の石川孝一副団長が参加されました。

ここに、石川副団長からの寄稿文をご紹介します。

第四十四回消防団幹部特別研修に参加して



阿見町消防団 副団長 石川 孝一

第四十四回消防団幹部特別研修が、平成三十年一月九日から平成三十年一月十二日までの四日間、日本消防会館にて、全国四十七都道府県より団長二十八名、副団長十九名の参加で行われました。

初めに研修の話聞いた時には、副団長以上の参加ということだったので、副団長級が多く参加するのかなと思いましたが、名簿を確認すると半数以上が団長ということに緊張したことを覚えています。私は規模の大きな研修は、茨城県の指導員養成科しか参加していなかったため、雰囲気が違うと感じました。

研修では、秋本消防協会会長、稲山消防庁長官の挨拶で開校式、記念撮影などが行われました。研修は、秋本消防協会会長による会長講和から始まり、各講師による課題研究討議、消防行政、防災対策、危機管理などを受講、視察を行いました。

視察では、二日目に消防庁の消防防災・危機管理センターを視察しました。センター内には人が見あたらず不思議に思っていると「平時の際は、各担当者は通常業務を行っているため人がいませんが、有事が起こった際、三十分以内に各担当者が参集しセンター内は戦場のようなことでした。」とのことでした。

三日目は、東京消防庁第二方面消防救助機動部隊、通称ハイパレスキュー隊を視察しました。敷地内には高さ1m50cmほどの大岩があり、普段火葉を使い大岩を破碎する訓練を行っているそうです。

また、機材を使い地中に埋もれた人の呼吸を感じし場所を特定する所を見学させていただきました。有事の際に人命を救助できるよう、危険な訓練や特殊な機材を揃えていることに感銘を受けました。課題研究討議では、いくつかの班に分かれ検討を行い、私たちの班は「大規模災害時における現場活動の問題点と団員の安全対策について」というテーマを検

討しました。近年、地震や異常気象に伴う風水害の発生が多発しているため、今後災害に巻き込まれた際、消防団員として必要な行動、注意すべき点があるのではないかと感じたからです。

私たちの班は、幸いなことではありませんが大規模な災害にあった方がいなかったため、一から手探りで検討していかねければならず、まず現場活動の問題点から検討していきましました。

地元で大規模災害が起こった際、私たち消防団員も救助活動、復旧活動などを行うことになると思いますが、私たち消防団員も被災者であることに変わりありません。自身がケガをしたり、家族がケガをした場合、活動に支障がでることは確実です。

その際、本部と団員・家族間で確実に連絡をとりあえる手段があれば、安否確認ができ、活動可能な人員数の確認もできます。また、それを用いて災害状況・危険な個所の確認、早急な状況把握により各団員への確な指示を行うことができます。

次に上空から災害状況を把握できないかということを検討しました。ドローンならばそれほど値段も高くなく、維持費もそこまでかからないのではないかと考えました。各団員に操作を覚えさせれば、危険な個所の状況を安全に確認できるのではないかと考えました。

以上の点から災害時には、まず、団員の安全を確保することが、その後の活動にとって重要だという結論になりました。

最後に、今回の研修で学んだ事を地元で活かしていきたいと思えます。今回の研修でお世話になりました講師の方々、

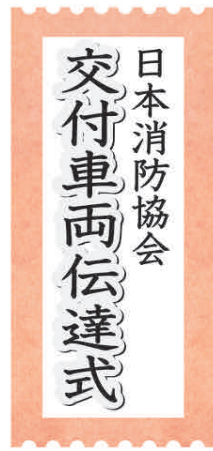
日本消防協会 秋本会長、職員の皆様方に感謝いたします。本当にありがとうございました。

日本消防協会から交付された車両の伝達式が平成二十九年十二月二十一日(木)に消防学校において行われました。

日本消防協会が行っている「消防団員等福祉共済の福祉増進事業」並びに「日本消防人共済会の教育広報事業」の一環として交付されたものです。



左から藤田団長、葉梨会長、大内消防長



オリジナルTシャツ
アポロキャップ
徽章類
消防グッズ各種

茨城県マスコット ハッスル黄門
ハッスル黄門

水戸スポーツ株式会社

水戸市袴塚1-1-2
TEL029[224]3450 FAX029[224]3430

■県防災情報ネットワークシステム
■高機能消防指令システム、消防救急デジタル無線

Orchestrating a brighter world

NEC

日本電気株式会社
茨城支店

〒310-0011 水戸市三の丸1-1-25(水戸駅前ビル)
TEL 029-226-1717 FAX 029-226-1685

今年度交付されたのは次のとおりです。

○大子町消防団
軽パン型防災活動車

○ひたちなか・東海消防本部
ワンボックス型防災活動車

両車両とも4WD・AT車です。伝達式は、飛田消防学校長の立ち会いの下に葉梨会長から藤田団長、大内消防長へそれぞれ車両のレプリカキーによる贈呈が行われ、会長あいさつ、藤田団長、大内消防長の謝辞と続き、最後に記念撮影を行い終了しました。

寒い中早朝よりお集まりいただきありがとうございました。

全国シェアNo.1の消防車メーカー
(株)モリタの各種消防自動車

常に最新技術を反映して様々な災害現場で活躍する消防車を制作します。

その他の取扱品目
小型動力消防ポンプ・消防用ホース
救助資機材・潜水機材・消防用被服
防災用品・消防用品・消防資機材

有限会社 鈴機

茨城県代理店
〒315-0014 石岡市国府5-2-25
TEL:0299-22-3010 FAX:0299-22-5846

Panasonic

自動火災報知設備
非常電源設備
自家発電設備
CVCF設備
FAX、パソコン

パナソニック株式会社 特機商品代理店
株式会社入江電機工業所

本社 〒310-0031 水戸市大工町2丁目3番23号
TEL.029-224-4614(代表)
FAX.029-224-4613

千波営業所 〒310-0851 水戸市千波町海道付2027番地
TEL.029-241-3636(代表)
FAX.029-244-0540

土浦営業所 〒300-0061 土浦市並木1丁目2番20号
TEL.029-821-8498(代表)
FAX.029-822-6575

トーハツ 小型消防ポンプ

充実のVシリーズ

V75ESからV10Fまで
豊富な機種でお客様のご要望にお応えいたします。

消防ポンプ自動車 消防用ホース
消火器 消防服装
消防資機材用品一式

茨城県代理店
トキワ産業株式会社

水戸市三の丸3丁目7番1号
TEL.029(224)3324(代) FAX.029(224)3360

《編集後記》今年も協会の行事等にご協力ご理解を頂きながら進めてまいりますので、引き続きよろしくお願いたします。皆様からの寄稿文や様々な情報を心よりお待ちしております。また、広告掲載を募集しております(掲載料:掲載一回税込み五千四百円、掲載サイズについては誌面四頁の掲載広告を参照して下さい。)。是非、ご連絡ください。(こ)